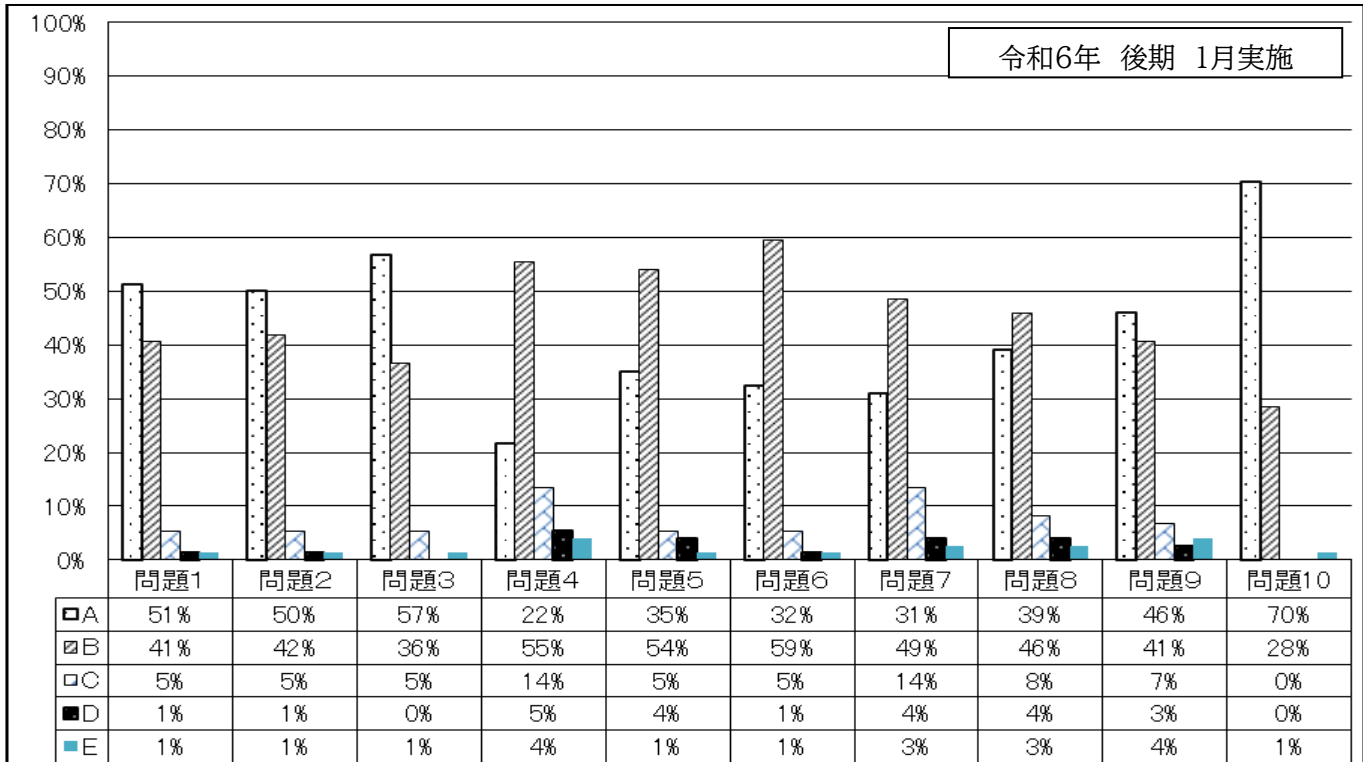
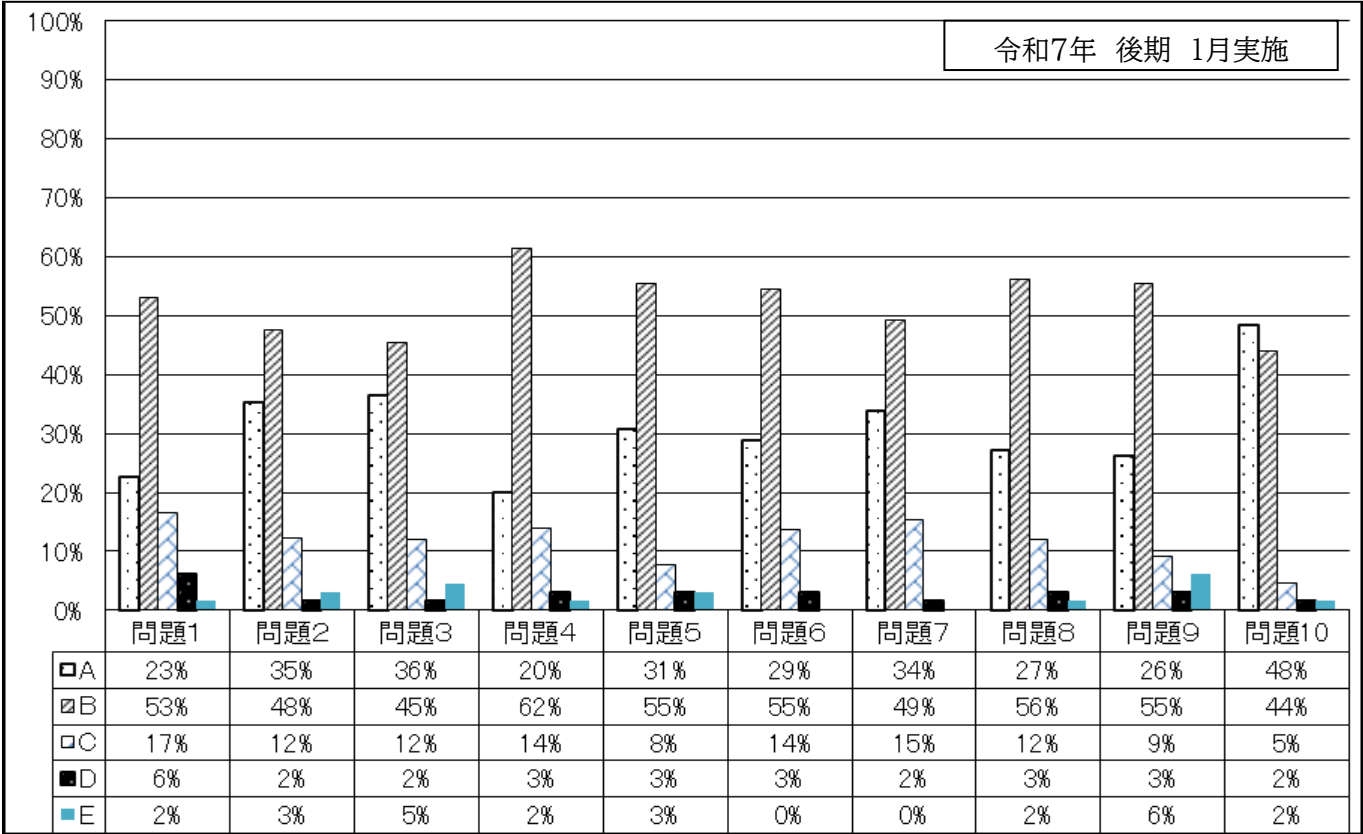


後期学校評価アンケート集計結果 経年比較(保護者)



- 問1 教育方針や取組内容を学校だよりや懇談会等の機会にわかりやすく伝えている。
- 問2 教育目標の達成に向けて、情熱を持って教育にあたっている。
- 問3 子ども一人ひとりが大切にされて、認められる学校づくりを進めている。
- 問4 宿題や家庭読書など家庭での学習習慣が身についている。
- 問5 教科の学習内容がわかり、基礎的な学力が身に付く取組を進めている。
- 問6 集団での規律やマナーなどが身に付くような取組を進めている。
- 問7 早寝・早起き・朝ごはんの習慣が身についている。
- 問8 子どもが成就感や満足感を感じながら学校生活を送れるような取組が進められている。
- 問9 子どもに力をつけてほしいという保護者の思いや願いに応えようする姿勢が見られる。
- 問10 様々な取組や行事等を通して、家庭・地域と協力して子どもの教育にあたっている。

学校評価の結果からは、学習や学校生活の中で前向きな変化が見られる一方、自由記述欄には「説明が分かりにくい」「学校の思いが十分に伝わっていない」といったご意見も多く寄せられました。これらの声を、学校への期待として大切に受け止めています。この結果をもとに、学校の取組や考えをより分かりやすくお伝えするとともに、保護者の皆様との対話を大切にしながら、安心してつながり合える「チーム乾隆」として、よりよい学校づくりを進めてまいりたいと思います。

後期は問1と問4を除いて、「A よくあてはまる」「B ややあてはまる」を合わせた肯定的な評価が80%以上を占めていました。

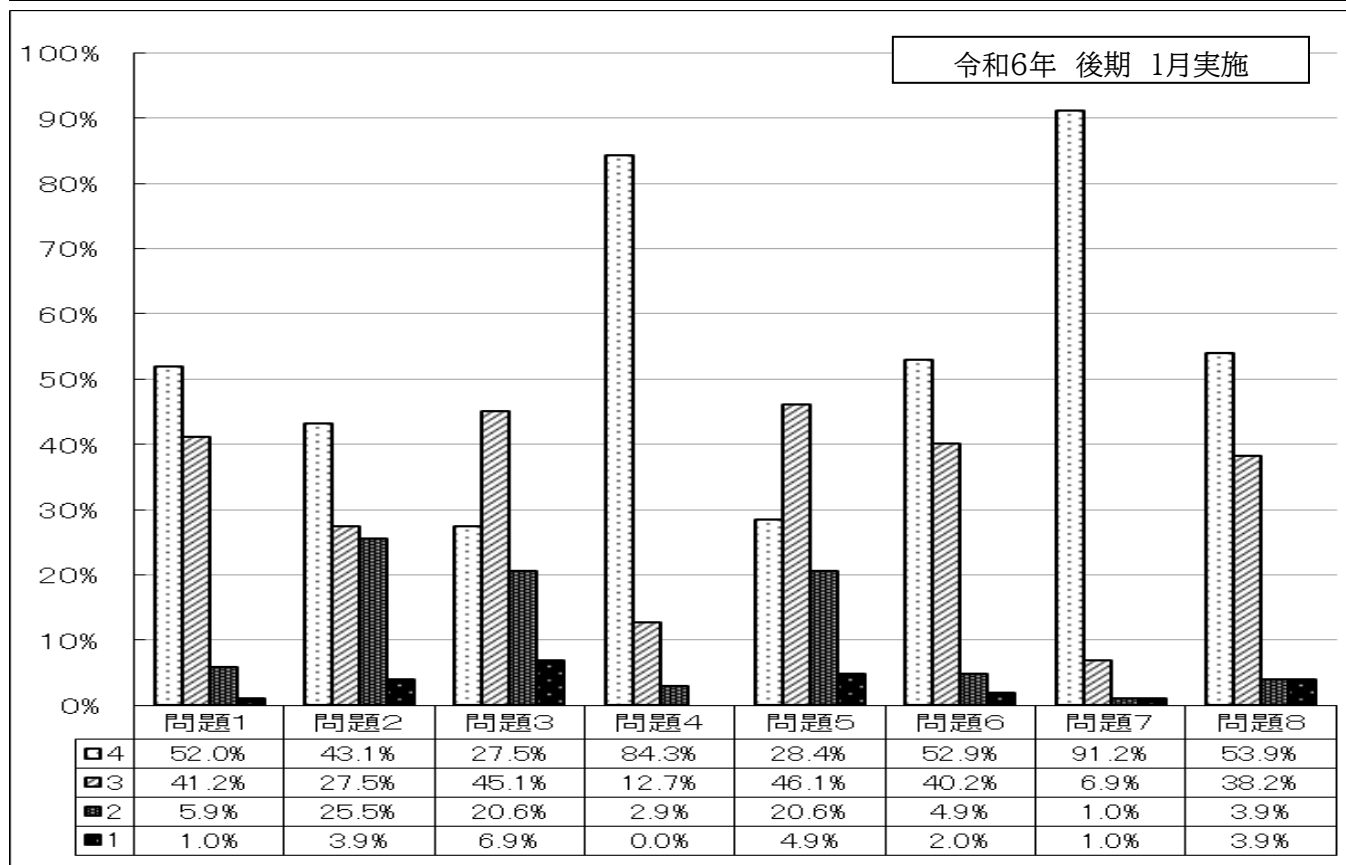
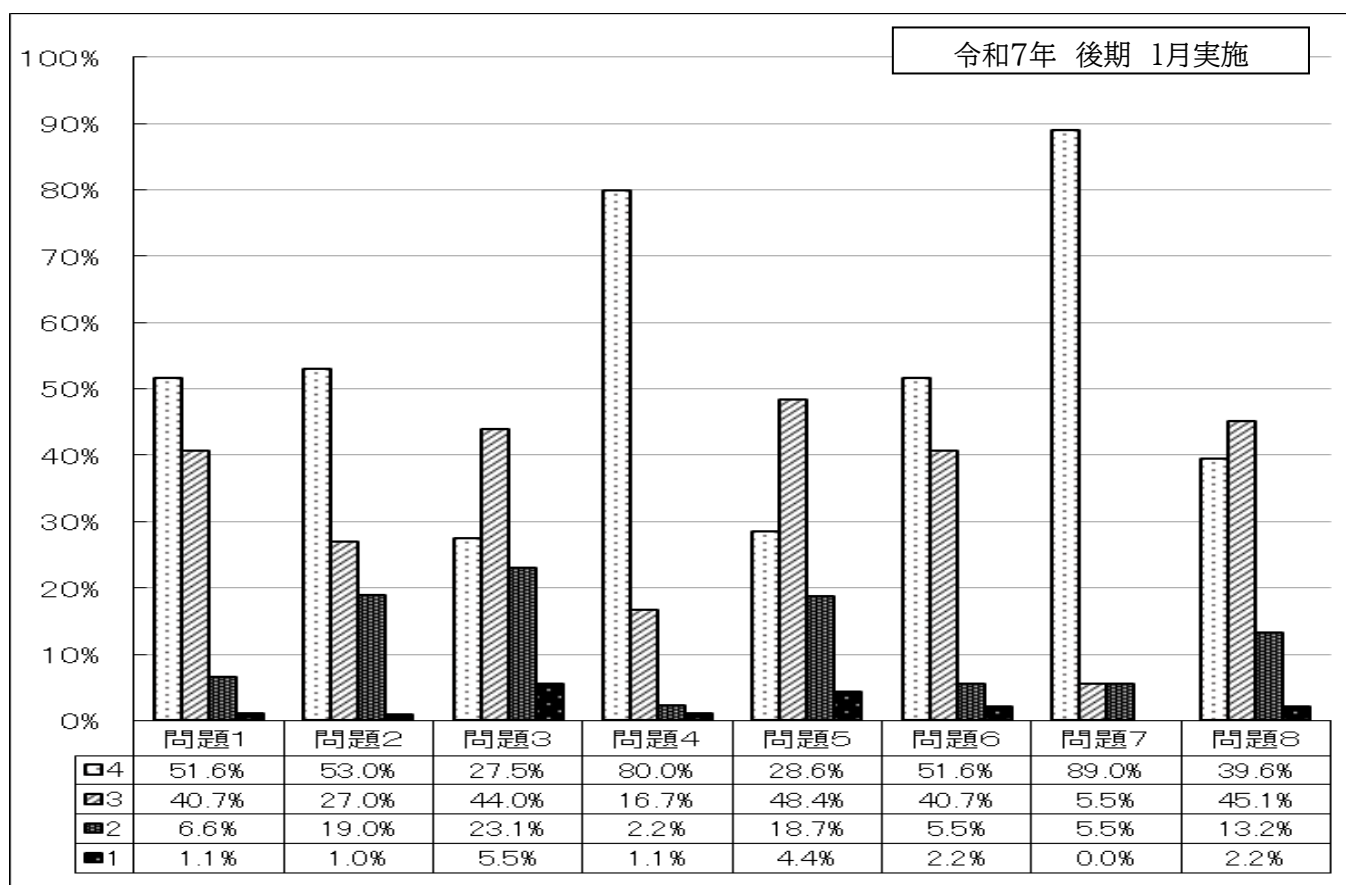
一番高い評価だった項目は、問10『様々な取組や行事等を通して、家庭・地域と協力して子どもの教育にあたっている』で、「A よくあてはまる」「B ややあてはまる」を合わせて 90%以上でした。保護者や地域の皆様には、様々な活動を通して子どもたちのがんばりや成長を見守り、ご指導をいただいています。今後も、家庭・地域・学校がしっかり対話し、協力しながら、持続可能な教育活動を実施していきたいと思っています。

昨年度の同時期のアンケート結果と比較すると、評価の下がった項目もありました。問2『教育目標の達成に向けて、情熱を持って教育にあたっている』、問5『教科の学習内容がわかり、基礎的な学力が身に付く取組を進めている』、問7『早寝・早起き・朝ごはんの習慣が身についている』、問8『子どもが成就感や満足感を感じながら学校生活を送れるような取組が進められている』、問9『子どもに力をつけてほしいという保護者の思いや願いに応えようする姿勢が見られる』の4つの項目については、昨年度との比較では評価が下がってはいますが、今年度の前期の結果よりも向上していました。

問1『教育方針や取組内容を学校だよりや懇談会等の機会に分かりやすく伝えている』、問4『宿題や家庭読書など家庭での学習習慣が身についている』の項目は、昨年度や前期と比較すると肯定的な評価の低い結果となっています。前期に引き続き、学校だよりや懇談会において、伝える内容を整理し、ねらいや理由を分かりやすく示すとともに、保護者の皆様との対話を大切にしたい説明の工夫を行っていききたいと思います。

家庭学習については、今後も引き続き、わかる喜びや学ぶ楽しさが実感できる授業を目指すとともに、内容の検討の時期でもあると考えています。子どもの興味関心に即し、生涯学習につながる学ぶ楽しさ、学ぶ意欲を育む取組を大切にしていきたいと思っています。

子どもたちから見た学校生活



- | | |
|-------------------|------------------------|
| ① あなたは、学校が楽しいですか。 | ② 勉強(授業)はわかりますか。 |
| ③ 授業中に発表していますか。 | ④ 宿題をしていますか。 |
| ⑤ 早寝早起きをしていますか。 | ⑥ あいさつをしていますか。 |
| ⑦ 朝ごはんを食べていますか。 | ⑧ 使ったもののあとかたづけをしていますか。 |

「①あなたは、学校が楽しいですか」については、「A よくあてはまる」「B ややあてはまる」の合計が92.3%(−0.9%)という結果でした。多くの子どもたちが学校で過ごすことを楽しいと回答していますが、7.7%の子どもたちは楽しくないと感じている結果です。この数字は決して小さなものではなく、一人ひとりの声を大切に受け止める必要があると考えています。「楽しくない」と感じる背景には、学習面での不安や友人関係の悩み、その時々の子どもの心身の状態など、さまざまな要因があります。すべての子どもが「学校に来てよかった」と感じられるよう、子どもたちの声に耳を傾け、教育活動の改善に努めてまいります。

「②勉強(授業)はわかりますか」では、「A よくあてはまる」「B ややあてはまる」の合計が79%(+8.4%)でした。この項目は、前期も昨年度と比較して向上している項目です。「勉強が分かる」という感覚は、学力面だけでなく、学校生活全体の安心感や自信とつながっています。一方で、「勉強分からない」状態が続くと、学習への苦手意識だけでなく、学校生活そのものへの不安につながる場合があります。学校では、子どもたちが「全部できる」ことよりも、「少し分かる」「やってみる」という経験を積み重ねられるよう、授業の工夫や個に応じた支援を大切にしていきたいと思っています。

「③授業中に発表していますか」は、昨年度と比較すると肯定的な回答が−0.4%ではありますが、前期と比較すると+2.3%となっています。この項目は少しずつ改善されている項目です。これは、ペアや小集団での話し合いなど、発表の形を工夫してきたことや、正解・不正解にとらわれず、子どもの考えを受け止める授業づくりを進めてきたことが、子どもたちの安心感や発言への意欲につながっているためではないかと考えられます。今後も、子ども一人ひとりが自分の考えを表現できる授業づくりを大切にしていきます。

「⑤早寝早起きをしていますか」の項目については、肯定的な回答が昨年度より2.5%向上しました。この結果は、学校での生活リズムに関する声かけや指導に加え、各家庭においても、子どもたちの生活習慣を意識して整えていただいていることが、子ども自身の意識や行動の変化につながってきているためと考えています。今後も、学校と家庭が連携しながら、子どもたちが心身ともに健やかに学校生活を送れるよう、生活習慣の大切さについて継続して取り組んでいきたいと考えています。

「⑧使ったもののあとかたづけをしていますか」では、「A よくあてはまる」「B ややあてはまる」の合計が84.7%(−7.4%)でした。あとかたづけは、単に物を元の場所に戻すことだけでなく、次に使う人のことを考えることや、自分の行動に責任をもつことにつながる、大切な生活習慣の一つです。学校と家庭が同じ視点で、「きれいにするため」ではなく、「自分で最後までやりきること」を大切にしながら関わっていくことで、子どもたちの行動は少しずつ変わっていくと考えています。今後も、家庭と連携しながら、子どもたちが自分の使った物に責任をもって行動できるよう、継続して取り組んでいきたいと考えています。

学校評価アンケート 自由記述欄(保護者)

- いつも細やかな気配りとご指導をありがとうございます。コロナ状況下で入学した子が楽しく学び、乾隆小学校が大好きになったのは教職員の皆様のご尽力のおかげです。本当にありがとうございます。
- いつも細やかな気配りとご指導をありがとうございます。いつもエネルギッシュな校長先生を始め、地域の行事にも積極的に参加してくださる先生方にたいへん感謝しております。いろんな行事ごとに参加してくださる先生方に休日は足りているか心配になるほどです。ご無理なさらず、今後ともよろしくお願いします。
- 長期休暇の宿題や制作研究等は、もっと自由度があってもよいかと思います。
- 充分見ていただいていると思うのですが、お願いできるのであれば、少し生徒の習熟度を確認しながら授業を進めていただけると有難いです。教科によってついていけないままどんどん授業が進んでいくとすることがあるようなので。
- 次年度から予定されているユニット制について不十分な説明で、それについての配布物も無い状態に親子共々不安を抱えています。教育を受ける立場にいる者が安心もしていない状態で、本当に子どもたちひとりひとりを守って下さる学校なののでしょうか。出来ることなら、今現在のままで今後も学校生活をおくりたい。上の子から12年間小学校に関わっていますが、今まででいちばん学校生活に対して不安を感じています。
- 地域とは協力しており、地域住民の意見を取り入れているように感じるが、保護者の意見が聞いてもらえていないように感じる。ユニット担任制について、地域の役員と学校が話し合ったようだが、保護者には結果を報告するのみで意見は聞いてもらえていない。決まったことについて地域の役員に「ご理解くださいご理解ください！」と言葉を遮られ語気強く言われ、学校が保護者より地域の役員の意見を聞く意味は何なんだろうと残念に感じた。学校は子どもたちを大切にしてくださっているように感じるし、教育についても学校のやり方を信じていたが、ユニット担任制の説明会後からは、学校のやり方や方針がどのようになっているのか不信感がある。
- 来年度からのユニット制が、保護者に説明不足のまま進められそうで、不安に感じています。終業式で校長先生から児童に話され、児童から不安や不満の声が広がった際に、その声を「ワクワクの声」と評価されたと聞きました。せめて子どもたちが理解できるように説明を尽くしていただきたいです。
- 日々の教育活動、感謝いたします。今回は厳しい回答にしています。「あまり あてはまらない」に関して、詳細を記入しました。次年度より導入予定のユニット制に関しては書面での説明や十分な返答が足りない様に感じます。次年度より導入予定のユニット制に関しては書面での説明や十分な返答が足りない様に感じます。不登校や登校についてです。他学年ですがその様な子は対人関係のトラブルがあったという話を子どもから聞きます。学校は周知しているのでしょうか？行事に関してです。学習発表会の鑑賞がコロナ以降全学年の鑑賞ができなくなり残念です。他学年の鑑賞は家庭内で子どもとの会話が増える楽しい時間であり、観客が多い方が子どもたちも嬉しいのではないのでしょうか？
- 今回の、ユニット担任制についての進め方について、子ども自身、不安な思いが強い。今の学年で授業は一緒ではあるが、授業中に私語をすることはできず、移動の5分は次の授業の準備があり、結果コミュニケーションをとる時間がない。学年でクラスを半分にするということは、男子なら2人と2人、女子でも2人と3人に別れてしまい、そのうち同性1人が休みの場合、孤独を感じてしまう。年に1回のクラス替えのわくわくを感じるために、高学年に入る大事な時期をそのような不安を抱えたまま進学できるのか。せめて、授業以外で学年で過ごす日を設けていただきたいと感じています。
- ユニット制のメリットがあまりわかりません。担任も複数制最終学年を迎える子が卒業に向けてクラスの団結などがうすくなる気がします。授業は別、HR などだけわけると…どーゆーメリットがあるのか…やるなら下の学年から徐々にその環境にならしていく必要があるのではないかとおもいます。高学年の子が可哀想。